

科目名	研究法					単位数	4	時間数	60	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室	
授業概要	作業療法の研究とはどのようなものか、研究に必要な知識とは何かを学習する。									
一般目標	文研研究を通し、研究に必要な知識を学ぶ。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法研究法第2版(医学書院)									

到達目標		
知識(認知領域) 研究を行うために必要な専門用語を理解し説明できる。		
技術(精神運動領域) 研究の方法を説明できる。		
態度(情意領域) グループワークに積極的に参加することができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	作業療法の研究とは	研究の意義を説明できる。
2	研究に必要な統計解析①	統計的有意差と臨床的有意差を説明できる。
3	研究に必要な統計解析②	パラメトリック検定とノンパラメトリック検定について説明できる。
4	研究に必要な統計解析③	標準偏差、正規分布について説明できる。
5	研究に必要な統計解析④	2群間の差の検定について説明できる。
6	研究に必要な統計解析⑤	相関と回帰、多変量解析について説明できる。
7	量的研究の方法①	量的研究の枠組みについて説明できる。
8	量的研究の方法②	研究の信頼性・妥当性について説明できる。
9	量的研究の方法③	量的研究法の種類を説明できる。
10	質的研究の方法①	主な質的研究方法について説明できる。
11	質的研究の方法②	データ収集の方法について説明できる。
12	質的研究の方法③	質的研究の信頼性・妥当性について説明できる。
13	文献研究の方法①	文献研究の方法について説明できる。
14	文献研究の方法②	文献研究の方法について説明できる。
15	文献研究の方法③	文献研究の方法について説明できる。
16	研究目的・研究疑問と仮説	研究の目的・研究疑問と仮説について説明できる。
17	研究と倫理	研究に必要な倫理的配慮について説明できる。
18	研究計画書作成の手順	研究計画書作成の手順について説明できる。
19	研究計画の立案①・・・文献研究	グループワークで話し合うことができる。
20	研究計画の立案②	グループワークで話し合うことができる。
21	文献研究① ゼミ活動	グループワークで話し合うことができる。
22	文献研究②	グループワークで話し合うことができる。
23	文献研究③	グループワークで話し合うことができる。
24	文献研究④	グループワークで話し合うことができる。
25	文献研究⑤	グループワークで話し合うことができる。
26	文献研究⑥	グループワークで話し合うことができる。
27	文献研究⑦	グループワークで話し合うことができる。
28	文献研究⑧	グループワークで話し合うことができる。
29	発表	文研研究の内容を発表できる。
30	まとめ	全講義を学びを振り返ることができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品	○	○	○	100	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	上原 奈緒子		実務経験紹介	作業療法領域での研究実績あり	

科目名	作業療法管理学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期・後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室
授業概要	作業療法士として働くうえで最低限必要な制度などについて、またチーム医療での働き方について具体的な内容を取り上げて講義する。									
一般目標	作業療法部門の組織体系について理解し、病院・施設等での役割について理解する。また、作業療法に関わる診療報酬や施設認可の規定、記録等の個人情報の取り扱い、医療事故・ヒアハットに対する危機管理等の実際や、守秘義務等のチーム医療で必須となる職業倫理について理解を深める。									
テキスト 参考書等	作業療法管理学入門 第2版(医歯薬出版)									

到達目標		
知識(認知領域)		
① 作業療法部門の管理・運営について説明できる。② 管理・運営に関する法律・制度について理解する。		
技術(精神運動領域)		
特になし		
態度(情意領域)		
授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	講義オリエンテーション 作業療法におけるマネジメント	講義内容や成績評価及び方法を説明できる。 マネジメントの資源とその特性を理解できる。PDCAサイクルの各要素と考え方を理解できる。目標設定の重要性を理解できる。
2	組織の成り立ちとマネジメント	組織の仕組みを理解できる。組織における集団と個人の関係性を理解できる。病院組織における作業療法の役割を理解できる。
3	情報のマネジメント	情報の種類とその違いを理解できる。情報の階層性に応じて行動が変わることを理解できる。診療情報の役割と記録の基本原則を理解できる。
4	作業療法と医療サービス	サービスとは何かを理解できる。サービスの基本的特性と構成を理解できる。医療におけるサービスの特徴を理解できる。
5	医療安全のマネジメント	アクシデント、インシデント、医療過誤、ヒューマンエラーを理解できる。医療事故を減少させるための方法を考察できる。
6	作業療法業務のマネジメント①	新人教育および人材育成の重要性を理解できる。
7	作業療法業務のマネジメント②	情報とか何か、タイムマネジメントやストレスマネジメントとは何かを理解できる。
8	作業療法業務のマネジメント③	作業療法実践のための業務管理と人材育成について理解できる。
9	作業療法の役割と職域	作業療法の法的根拠を理解できる。作業療法に関連する法律および定義を理解できる。職能団体の意義と役割を理解できる。
10	作業療法士の職業倫理	倫理的態度について理解できる。作業療法士の職業倫理・研究倫理について理解できる。ハラスメントとその防止について理解できる。
11	作業療法をとりまく諸制度①	病院や診療所、介護・福祉施設といった作業療法士が所属する事業所の運営に関連する制度を理解する。
12	作業療法をとりまく諸制度②	病院や診療所、介護・福祉施設といった作業療法士が所属する事業所の運営に関連する制度を理解する。
13	作業療法臨床実習の理解と管理体制	作業療法教育課程における臨床実習の位置づけを理解する。作業療法臨床実習の到達目標と評価について理解できる。作業療法臨床実習の指導体制および指導方法について理解できる。作業療法臨床実習で求められる学生の資質について理解できる。
14	作業療法士のキャリア開発	学会、研修会への参加・発表方法を理解する。
15	管理学まとめ	各講義の内容を振り返り、説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として病院、介護保険施設で10年以上の臨床経験がある。	

科目名	精神障害作業療法評価法実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT3年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	301教室
授業概要	精神科作業療法で用いる評価法を体験的に理解し、留意点を意識しながら演習に取り組んでもらう。									
一般目標	精神科作業療法における評価の流れを理解、実施する。									
テキスト 参考書等	・精神障害と作業療法 新版(三輪書店) ・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学(メジカルビュー社) ・精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版(中央法規)									

到達目標		
知識(認知領域)		
各種評価法の手順や留意点を挙げることができる。		
技術(精神運動領域)		
1. 関与・非関与観察を行い、評価表に沿って記録する。 2. 作業療法導入面接を行い、面接で聴取すべきポイントを押さえる。 3. 情報収集面接を行い、面接で聴取すべきポイントを押さえる。 4. 作業面接を行い、作業遂行力評価のポイントを押さえる。 5. 節度ある態度、言葉遣いで面接することができる。		
態度(情意領域)		
授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション・復習	前期講義内容の精神科作業療法の手順や各項目の詳細を説明することができる。
2	観察①	関与観察における評価項目を列挙し、その項目を観察することが出来る。
3	観察②	2の講義で観察された事実を評価表に記録することが出来る。
4	観察③	対象者の1週間の様子を非関与観察し、評価表に記録することが出来る。
5	インテーク面接	インテーク面接の概要(目的、効果)、手順、留意点を列挙、演習・記録出来る。
6	インテーク面接	インテーク面接の概要(目的、効果)、手順、留意点を列挙、演習・記録出来る。
7	インテーク面接	インテーク面接を経験し、手順、留意点を再度列挙、説明することが出来る。
8	インテーク面接	面接情報をプロセスレコードに記録し、自身の言動を振り返ることが出来る。
9	情報収集面接(COPM、ADOC)	情報収集面接(COPM、ADOC)の概要(目的、効果)、手順、留意点を列挙、演習・記録出来る。
10	情報収集面接	情報収集面接で得られた情報をプロセスレコードに記録し、自身の言動を振り返ることが出来る。
11	作業面接	作業面接の概要、手順、留意点を説明でき、箱作り法を実施することが出来る。
12	作業面接	作業遂行記録表に作業面接での対象者の様子を記録することが出来る。
13	作業面接(交互色彩分割法)	作業面接(交互色彩分割法)を実施し、手順、評価視点を説明することができる。
14	精神科作業療法評価の流れの復習	精神科作業療法評価の流れを説明することができる。
15	まとめと試験対策	精神科作業療法評価の流れを説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介		実務経験紹介	精神科病院、高齢期施設での勤務経験(8年)と現在刑務所非常勤(2年)で作業療法評価を実施。	

科目名	運動器障害作業療法学実習A					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	レクリエーション室
授業概要	この授業では運動器障害の治療手段として用いられる基本的な手技を安全・正確に行うことが出来るようになる事を目標とする。									
一般目標	・自己紹介および対象者の氏名を確認するなどの基本的対応を習得する。・治療の目的、方法を対象者に説明し了承を得るなどの、インフォームドコンセントに関する基本的対応を習得する。・対象者の疾患、状態、Needに合わせた基礎的な治療技術を習得する。・治療を適切な方法、時間内で実施する技術を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院) / 標準作業療法学 身体機能作業療法学(医学書院) 実践リハ評価マニュアル 臨床ROM(ヒューマン・プレス) / 新・徒手筋力評価法(協同医書出版社) / 作業療法 技術ガイド(文光堂)									

到達目標		
知識(認知領域) 各治療内容について、その対象、実施方法、注意事項を理解し説明出来る。		
技術(精神運動領域) 各治療内容について、その方法、場所、時間、使用機材を適切に用い実施出来る。		
態度(情意領域) 治療対象者に対し、適切な言葉使い(敬語を使用し専門用語を使用しない)、態度(目線を合わせるなど)が出来る。 医療従事者として適切な身だしなみ(髪型、化粧、服装など)を整える。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 運動療法とは	運動器疾患における運動療法の意義を理解し説明することが出来る。
2	関節可動域訓練①	関節可動域改善のための基礎知識を理解し説明することが出来る。 基礎的な関節可動域訓練を実施出来る。
3	関節可動域訓練②	基礎的な関節可動域訓練を実施出来る。
4	関節可動域訓練③	基礎的な関節可動域訓練を実施出来る。
5	関節可動域訓練④	基礎的な関節可動域訓練を実施出来る。
6	筋力増強訓練①	筋力増強・筋持久力向上のメカニズム、運動負荷とリスクの関連を理解し説明することが出来る。 基礎的な筋力増強訓練を実施出来る。
7	筋力増強訓練②	基礎的な筋力増強訓練を実施出来る。
8	筋力増強訓練③	基礎的な筋力増強訓練を実施出来る。
9	筋力増強訓練④	基礎的な筋力増強訓練を実施出来る。
10	感覚・知覚再教育①	知覚再教育のための基礎知識を理解し説明することが出来る。 基礎的な知覚再教育を実施出来る。
11	感覚・知覚再教育②	基礎的な知覚再教育を実施出来る。
12	物理療法(PT山本教員)	物理療法の基礎を学び、その方法、効果、禁忌等を学び、必要に応じ実施出来る。
13	模擬患者練習①	関節可動域訓練、筋力増強訓練を訓練プログラムとして模擬症例に実施出来る。
14	模擬患者練習②	関節可動域訓練、筋力増強訓練を訓練プログラムとして模擬症例に実施出来る。
15	まとめ	学んだ治療手技を、接遇を含め適切に実施出来る。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	河本 玲子、山本 悟		実務経験紹介	作業療法士として医療・保健施設、および教育機関での実務経験が20年以上ある。	

科目名	運動器障害作業療法学実習B					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	レクリエーション室	
授業概要	臨床実習では対象者に対して適切な評価・治療を実施する必要がある。本授業では客観的臨床能力試験（OSCE）を通じて作業療法に必要な評価・治療方法を学習する。									
一般目標	・各種評価、治療を実施する技術を身につける。									
テキスト 参考書等	PT・OTのための臨床技能とOSCE（コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版／機能障害・能力低下への介入編）（金原出版）									

到達目標		
知識(認知領域) ・各種評価、治療の方法について説明できる。		
技術(精神運動領域) ・各種評価、治療を実施できる。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	客観的臨床能力試験(OSCE)に関するオリエンテーション	OSCEの概要について説明できる。 第1回OSCEに向けて計画を立てることができる。
2	OSCE事前講座(医療面接)	対象者に医療面接を実施できる。
3	OSCE事前講座(BRS)	対象者にBRSテストを実施できる。
4	OSCE事前講座(感覚検査)	対象者に感覚検査を実施できる。
5	OSCE事前講座(反射検査)	対象者に反射検査を実施できる。
6	OSCE事前講座(関節可動域測定)	対象者にROM測定を実施できる。
7	OSCE事前講座(起き上がり)	対象者に起き上がり指導を実施できる。
8	OSCE事前講座(更衣)	対象者に更衣(上衣)動作指導を実施できる。
9	OSCE事前講座(車椅子駆動)	対象者に車椅子駆動指導を実施できる。
10	OSCE事前講座(起立・着座)	対象者に起立・着座指導を実施できる。
11	OSCE事前講座(移乗)	対象者に移乗動作指導を実施できる。
12	OSCEフィードバック	OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。
13	OSCEフィードバック	OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。
14	OSCE試験まとめ	OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。
15	OSCE試験まとめ	OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	()内はGPA点数
出席			○	欠格条件	
担当教員	濱本 尊博		実務経験紹介	各担当者が各領域での作業療法を実践した経験を10年以上有している(濱本、石丸)。	

科目名	運動器障害作業療法学実習C					単位数	1	時間	30	
授業形態	実習	対象学生	3年	学期	前後期	教員実務経験	有	使用教室	レク室・301教室	
授業概要	運動器疾患をもつ事例への作業療法の流れを学び、評価計画からプログラム立案までを実施することを目標とする。									
一般目標	臨床実習に向け、演習を通じて運動器疾患をもつ事例への作業療法の流れを修得することができる。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版(医学書院) 作業療法技術ガイド(文光堂)									

到達目標		
知識(認知領域) 運動器疾患を持つ事例に対して治療の流れを列挙しその根拠を説明できる。		
技術(精神運動領域) 運動器疾患を持つ事例に対してプログラム実施計画を立てることができる。		
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	作業療法における思考・実践のプロセス	運動器作業療法における思考・実践プロセスについて理解し、説明することができる。
2	事例検討(グループワーク)	運動器作業療法における評価項目と課題の列挙、作業療法計画の立案ができる。
3	事例検討(グループワーク)	評価をまとめることができる。
4	事例検討(グループワーク)	全体像をまとめることができる。
5	事例検討(グループワーク)	全体像からICFシートを作成することができる。
6	事例検討(グループワーク)	全体像からICFシートを作成することができる。
7	事例検討(グループワーク)	目標を設定することができる。
8	事例検討(グループワーク)	プログラム実施計画を立てることができる。
9	まとめ	前半の講義をまとめ、説明ができる。
10	オリエンテーション 模擬患者の評価計画	面接、観察で情報を得ることを前提に、得るべき情報・ADL評価の項目を列挙できる。 対象患者の障害像をイメージし、質問項目や観察項目に優先順位をつけることができる。
11		
12	模擬患者の評価計画、実技練習	面接、観察で情報を得ることを前提に、得るべき情報・ADL評価の項目を列挙できる。 対象患者の障害像をイメージし、質問項目や観察項目に優先順位をつけることができる。 MMT実施の事前練習ができる。 移乗介助ができる。
13		
14	模擬患者へ評価実施事例のまとめ レポートフィードバック まとめ	列挙した評価項目について、面接・観察を行うことができる。 対象者に対し、適切な言葉使い、態度ができる。 転倒防止の配慮ができる。 頰損患者に対しMMTが実施できる。 レジメに沿って情報を整理することができる。
15		

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			75	
授業態度			○	評価なし	
発表・作品	○			20	
演習		○		5	
出席			○	欠格条件	
担当教員	濱本 尊博		実務経験紹介	作業療法士として7年間以上病院に勤務。その間、運動器疾患患者への作業療法実践経験あり(濱本)	

科目名	内部障害作業療法学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	内部障害の作業療法について評価・治療を通して基本的な知識を学ぶ。								
一般目標	内部障害の評価について説明できる, また作業療法について説明できる。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版(医学書院)								

到達目標		
各疾患について説明できる, それぞれに対応する評価・治療を説明できる。		
技術(精神運動領域) 評価・治療の実施手順を説明できる。		
態度(情意領域) 授業に積極的に参加する。		
回数	授業内容	授業目標
1	呼吸器疾患の基礎	作業療法士が関わる呼吸器疾患の基礎知識を説明できる。
2	呼吸器疾患の作業療法評価	呼吸器疾患の作業療法評価を説明できる。
3	呼吸器疾患の作業療法①	呼吸器疾患の作業療法を説明できる。
4	呼吸器疾患の作業療法②	事例を通して評価・治療を説明できる。
5	循環器疾患の基礎	作業療法士が関わる循環器疾患の基礎知識を説明できる。
6	循環器疾患の作業療法評価	循環器疾患の作業療法評価を説明できる。
7	循環器疾患の作業療法①	循環器疾患の作業療法を説明できる。
8	循環器疾患の作業療法②	事例を通して評価・治療を説明できる。
9	内分泌代謝疾患の作業療法評価	作業療法士が関わる内分泌代謝疾患の基礎知識を説明できる。
10	内分泌代謝疾患の作業療法①	内分泌代謝疾患の作業療法評価を説明できる。
11	内分泌代謝疾患の作業療法②	内分泌代謝疾患の作業療法を説明できる。
12	悪性腫瘍の作業療法評価	作業療法士が関わる悪性腫瘍の基礎知識を説明できる。
13	悪性腫瘍の作業療法① (鈴木)	悪性腫瘍による浮腫に対する知識と後療法(リンパドレナージ等)について説明できる。
14	悪性腫瘍の作業療法② (鈴木)	悪性腫瘍による浮腫に対する知識と後療法(リンパドレナージ等)について説明できる。
15	まとめ	

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	上原 奈緒子、濱本 尊博、外部講師		実務経験紹介	身体機能障害関連領域での作業療法実施経験あり	

科目名	神経障害作業療法学実習A					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室	
授業概要	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を学習する。									
一般目標	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を習得する。									
テキスト 参考書等	脳卒中最前線 第4版（医歯薬出版株式会社）									

到達目標		
知識(認知領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる知識を習得できる。		
技術(精神運動領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたっての治療計画を立案できる。		
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	変性疾患に対する作業療法の実践	変性疾患事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
2	変性疾患に対する作業療法の実践	変性疾患事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
3	変性疾患に対する作業療法の実践	変性疾患事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
4	変性疾患のケーススタディ	変性疾患事例に対する作業療法についての治療計画を立案できる。
5	神経筋疾患に対する作業療法の実践	神経筋疾患事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
6	神経筋疾患に対する作業療法の実践	神経筋疾患事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
7	神経筋疾患に対する作業療法の実践	神経筋疾患事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
8	神経筋疾患のケーススタディ	神経筋疾患事例に対する作業療法についての治療計画を立案できる。
9	認知症に対する作業療法の実践	認知症事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
10	認知症に対する作業療法の実践	認知症事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
11	認知症に対する作業療法の実践	認知症事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
12	認知症のケーススタディ	認知症事例に対する作業療法についての治療計画を立案できる。
13	摂食嚥下障害に対する作業療法の実践	摂食嚥下障害事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
14	摂食嚥下障害に対する作業療法の実践	摂食嚥下障害事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
15	摂食嚥下のケーススタディ	摂食嚥下障害事例に対する作業療法についての治療計画を立案できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	上原 奈緒子・濱本 尊博		実務経験紹介	各教員とも作業療法士として10年以上経験を有する。また、神経障害関連医療施設で作業療法評価の実践経験あり	

科目名	神経障害作業療法学実習B					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室	
授業概要	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を学習する。									
一般目標	神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を習得する。									
テキスト 参考書等	脳卒中最前線 第4版（医歯薬出版株式会社）									

到達目標		
知識(認知領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる知識を習得できる。		
技術(精神運動領域) 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたっての治療計画を立案できる。		
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	脳血管障害に対する作業療法の実践	脳血管障害に対する作業療法について説明し、評価項目を考え実施することができる。
2	脳血管障害に対する作業療法の実践	脳血管障害に対する作業療法について説明し、評価項目を考え実施することができる。
3	脳血管障害に対する作業療法の実践	脳血管障害に対する作業療法について説明し、評価項目を考え実施することができる。
4	脳血管障害で行う評価(運動機能評価)	脳血管障害に対する運動機能評価について説明し、評価項目を考え実施することができる。
5	脳血管障害で行う評価(運動機能評価)	脳血管障害に対する運動機能評価について説明し、評価項目を考え実施することができる。
6	脳血管障害で行う評価(運動機能評価)	脳血管障害に対する運動機能評価について説明し、評価項目を考え実施することができる。
7	脳血管障害で行う評価(運動機能評価)	脳血管障害に対する運動機能評価について説明し、評価項目を考え実施することができる。
8	脳血管障害で行う評価(上肢機能評価)	脳血管障害に対する上肢機能評価について説明し、評価項目を考え実施することができる。
9	脳血管障害で行う評価(上肢機能評価)	脳血管障害に対する上肢機能評価について説明し、評価項目を考え実施することができる。
10	脳血管障害で行う評価(上肢機能評価)	脳血管障害に対する上肢機能評価について説明し、評価項目を考え実施することができる。
11	脳血管障害で行う評価(上肢機能評価)	脳血管障害に対する上肢機能評価について説明し、評価項目を考え実施することができる。
12	脳血管障害で行う評価(歩行機能評価)	脳血管障害に対する歩行機能評価について説明し、評価項目を考え実施することができる。
13	脳血管障害で行う評価(歩行機能評価)	脳血管障害に対する歩行機能評価について説明し、評価項目を考え実施することができる。
14	脳血管障害で行う評価(歩行機能評価)	脳血管障害に対する歩行機能評価について説明し、評価項目を考え実施することができる。
15	脳血管障害で行う評価(歩行機能評価)	脳血管障害に対する歩行機能評価について説明し、評価項目を考え実施することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	上原 奈緒子、濱本 尊博		実務経験紹介	各教員とも作業療法士として10年以上経験を有する。また、神経障害関連医療施設で作業療法評価の実践経験あり	

科目名	神経障害作業療法学演習C				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 3年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室・レク室
授業概要	高次脳機能障害を有する方に対する作業療法の評価法の詳細や介入法の知識を学習する。								
一般目標	・高次脳機能障害を有する方に作業療法を実施する際必要とされる検査を実施する知識・技術を習得する。 ・事例検討を通して作業療法評価を立案する知識を習得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 高次脳機能作業療法学(医学書院)								

到達目標		
知識(認知領域) 各検査の実施方法を説明できる。事例検討に必要な情報を説明できる。		
技術(精神運動領域) 検査を実施できる。 事例検討のまとめをレジュメとして作成できる。		
態度(情意領域) 積極的な態度で授業に、参加しグループワークを行うことができる。授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	事例検討① 模擬事例提示。内容を理解するために調べ学習する。	担当した内容を調べることができる。また、それらを説明できる。
2	事例検討② 内容を理解するために調べ学習する。	担当した内容を調べることができる。また、それらを説明できる。
3	事例検討③ 情報の整理	情報に優先順位をつけることができる。
4	事例検討④ 情報の整理	情報に優先順位をつけることができる。
5	事例検討⑤ 作業療法評価計画立案	情報から作業療法評価を立案できる。
6	事例検討⑥ 作業療法評価計画立案	情報から作業療法評価を立案できる。
7	授業オリエンテーション 検査実施準備	担当の検査実施の準備ができる。
8	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようする。
9	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査実施の準備ができる。
10	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようする。
11	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようする。
12	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようする。
13	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようする。
14	模擬患者へ検査実施(記憶・注意・視覚認知・空間認知・前頭葉機能・スクリーニング) ※上記内容を7回に分けて実施する。	担当の検査を模擬患者へ実施できる。見学者は積極的に参加し、見学を通して検査の内容を説明できるようする。
15	まとめ 評価実習の流れと照合しながら確認する。	評価実習の流れと照合して評価計画立案までの流れを説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート	○			50	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品			○	50	
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	上原 奈緒子		実務経験紹介	作業療法士として医療・保健施設、および教育機関での実務経験が20年以上ある。	

科目名	精神障害作業療法学B				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT3年	学期	前後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	精神障害者に対する治療の理論を学び、各疾患に対する治療の考え方や評価項目の列挙、治療計画を立案することができる。								
一般目標	精神科作業療法計画を立案する上で重要な治療理論を理解する。								
テキスト 参考書等	・精神障害と作業療法 新版(三輪書店) ・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 改訂第2版(メジカルビュー社) ・精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版(中央法規)								

到達目標		
知識(認知領域) 回復状態に応じた治療介入法を具体的に述べる。 精神科作業療法の主たる対象疾患の基本的介入方法を説明することができる。		
技術(精神運動領域) 国家試験問題を通した解説作成の際、適切な文献から根拠を見出すことができ、それを論理的にまとめて説明することができる。		
態度(情意領域) 国家試験問題を通した解説作成ではグループで協力して取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	統合失調症に対する介入(前期)	介入ポイントを理解し、説明できる。
2	統合失調症に対する介入(前期)	介入ポイントを理解し、説明できる。
3	統合失調症に対する介入(前期)	介入ポイントを理解し、説明できる。
4	気分障害に対する介入(前期)	介入ポイントを理解し、説明できる。
5	気分障害に対する介入(前期)	介入ポイントを理解し、説明できる。
6	神経症に対する介入(前期)	介入ポイントを理解し、説明できる。
7	神経症に対する介入(前期)	介入ポイントを理解し、説明できる。
8	パーソナリティ障害・摂食障害に対する介入(後期)	介入ポイントを理解し、説明できる。
9	パーソナリティ障害・摂食障害に対する介入(後期)	介入ポイントを理解し、説明できる。
10	物質依存症に対する介入(後期)	介入ポイントを理解し、説明できる。
11	物質依存症に対する介入(後期)	介入ポイントを理解し、説明できる。
12	ケーススタディ(後期)	ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。
13	ケーススタディ(後期)	ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。
14	ケーススタディ(後期)	ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。
15	ケーススタディ(後期)	ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品			○	20	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	渡辺 慎介		実務経験紹介	精神科病院、高齢期施設での勤務経験(8年)と現在刑務所非常勤(2年)で作業療法評価を実施。	

科目名	精神障害作業療法学実習				単位数	1	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301
授業概要	精神科病院や施設に勤務する作業療法士から、実際の臨床現場での実践を聞き、作業療法士の専門性を理解することを求める。また、精神科作業療法で用いられる各治療法を知り、実習などで実践することを求めたい。								
一般目標	精神疾患の各回復状態における作業療法の実践を学び、作業療法士の役割・存在意義を理解する。履修内容を説明する。								
テキスト 参考書等	適宜プリント配布								

到達目標		
知識(認知領域) 各領域における作業療法士の役割を説明することができる。		
技術(精神運動領域) 受講後に、自分なりの考えを述べるができる。		
態度(情意領域) 演習に真面目な態度で取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割(武藤多鶴子)前期	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。
2	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割(武藤多鶴子)前期	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。
3	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割(武藤多鶴子)前期	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。
4	精神科作業療法(入院医療)における作業療法士の役割(武藤多鶴子)前期	入院医療における作業療法の実践を説明することができる。
5	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割(渡辺史朗)前期	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。
6	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割(渡辺史朗)前期	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。
7	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割(渡辺史朗)前期	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。
8	精神科デイケア(通院医療)における作業療法士の役割(渡辺史朗)前期	通院医療における作業療法の実践を説明することができる。
9	地域における作業療法士の役割(友村裕子)後期	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。
10	地域における作業療法士の役割(友村裕子)後期	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。
11	地域における作業療法士の役割(友村裕子)後期	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。
12	地域における作業療法士の役割(友村裕子)後期	地域や就労支援における作業療法の実践を説明することができる。
13	ケーススタディ(渡辺)後期	ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。
14	ケーススタディ(渡辺)後期	ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。
15	ケーススタディ(渡辺)後期	ケースを通して、OT臨床思考過程を説明できる。

成績評価方法						
		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験					評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト					評価なし	
宿題授業外レポート		○			100	
授業態度				○	評価なし	
発表・作品					評価なし	
演習			○		評価なし	
出席				○	欠格条件	
担当教員	武藤 多鶴子、渡辺 史郎、他		実務経験紹介	精神科病院にて精神科作業療法に10年以上従事している(武藤、渡辺・他)。		

科目名	発達障害作業療法学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	3	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	子供の発達過程についての基本的知識・技術を学習する。 発達障害を理解し、治療についての基本的知識・技術を学習する。 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を学習する。								
一般目標	様々な発達に関する検査について、その目的や内容に関する知識を習得する。 知的障害児、情緒障害児を理解し、治療的アプローチに関する知識を習得する。感覚統合療法について理解し、基本的技術を習得する。 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる基本的知識・技術を習得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) PT・OTのための発達障害ガイド(金原出版株式会社)								

到達目標		
知識(認知領域) 感覚統合について説明できる。 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたって必要とされる知識を習得できる。		
技術(精神運動領域) 感覚統合の評価を実施できる。 神経障害を呈する対象者に対する作業療法実施にあたっての治療計画を立案できる。		
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	感覚統合の理論	感覚統合の理論について説明できる。
2	感覚統合の理論	感覚統合の理論について説明できる。
3	発達障害と感覚統合	発達障害と感覚統合の関係について説明できる。
4	発達障害と感覚統合	発達障害と感覚統合の関係について説明できる。
5	感覚統合の評価と活動の分析	感覚統合の評価について説明し実施できる。
6	感覚統合の評価と活動の分析	活動について分析できる。
7	感覚統合的アプローチ	感覚統合を用いた治療が説明できる。
8	感覚統合的アプローチ・まとめ	感覚統合を用いた治療が説明できる。
9	脳性麻痺に対する作業療法の実践	脳性麻痺事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
10	脳性麻痺に対する作業療法の実践	脳性麻痺事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
11	脳性麻痺のケーススタディ	脳性麻痺事例に対する作業療法についての治療計画を立案できる。
12	自閉症スペクトラム障害に対する作業療法の 実践	自閉症スペクトラム障害事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
13	自閉症スペクトラム障害に対する作業療法の 実践	自閉症スペクトラム障害事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
14	自閉症スペクトラム障害に対する作業療法の 実践	自閉症スペクトラム障害事例に対する作業療法について説明し、評価項目を考えることができる。
15	自閉症スペクトラム障害のケーススタディ	自閉症スペクトラム事例に対する作業療法についての治療計画を立案できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	濱本 尊博、新庄 玉恵、他		実務経験紹介	作業療法士として7年間一般病院に勤務し、小児における作業療法評価の実施経験あり。	

科目名	作業療法実践技術論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	3	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	領域回復期別の作業療法の現状を学ぶ。								
一般目標	臨床実習に向けて、実際の臨床現場で行われている作業療法の目的やプロセスを理解し、臨床実習での実践力を身につける。								
テキスト 参考書等	適宜資料配布								

到達目標		
知識(認知領域) 各領域における作業療法の目的やプロセスを説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に積極的な態度で参加できる。 授業に出席する。		
回数	授業内容	授業目標
1	急性期における作業療法の実際①(池田)	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
2	急性期における作業療法の実際①(池田)	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
3	急性期における作業療法の実際②(吉長)	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
4	急性期における作業療法の実際②(吉長)	急性期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
5	地域における作業療法の実際①(岡藤)	回復期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
6	地域における作業療法の実際①(岡藤)	回復期における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
7	回復期における作業療法の実際②(高岡)	回復期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
8	回復期における作業療法の実際②(高岡)	回復期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
9	高齢期における作業療法の実際①(古谷)	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
10	高齢期における作業療法の実際①(古谷)	高齢期領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
11	精神科病院における作業療法の実際(奴田原)	精神科領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
12	精神科病院における作業療法の実際(奴田原)	精神科領域における作業療法の目的やプロセスについて説明できる。
13	グリーフケアの実際(小村)	グリーフケアについて、概要を理解し、意義を説明することができる。
14	グリーフケアの実際(小村)	グリーフケアについて、概要を理解し、意義を説明することができる。
15	グリーフケアの実際(小村)	グリーフケアについて、概要を理解し、意義を説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			100	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	石丸拓也、吉長 卓真、他		実務経験紹介	各領域で臨床勤務	

科目名	スポーツ作業療法学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT3年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	301教室、講堂、レク室
授業概要	趣味、余暇活動は人の日常生活をより良くするための重要な要素であり、スポーツもその一つの手段である。この授業では、障がい者がスポーツを通し、楽しみ、自己実現の手段を得る事をどのようにして支援していくかを学ぶ。								
一般目標	・障がい者スポーツ対象者の病態に関する知識を習得する。 ・障がい者スポーツ指導上必要な知識を習得する。 ・障がい者スポーツに実際に関わる事で、作業療法士としての役割について理解を深める。								
テキスト 参考書等	適宜資料配布								

到達目標		
知識(認知領域) ・障がい者スポーツの理念・意義・歴史について概要を理解する事が出来る。 ・障害者スポーツ指導上必要な知識を習得する。		
技術(精神運動領域) 対象者に対する競技指導を体験・模倣できる。		
態度(情意領域) 学外活動を行う上で必要な礼節、立ち居振る舞いを学び、実践することが出来る。 積極的に授業に参加することが出来る。		
回数	授業内容	授業目標
1	障がい者スポーツの意義と理念	障がい者スポーツの意義や理念を理解し、説明することが出来る。
2	全国障がい者スポーツ大会の概要	全国障がい者スポーツ大会の基本理念などを通して地域のスポーツ振興を進める役割を理解し、説明することが出来る。
3	障がい者スポーツ推進の取り組み	地域の障がい者スポーツ振興の現状を理解し、説明することが出来る。
4	障がい者スポーツに関する諸施策	障がい者福祉施策および障がい者スポーツに関する施策を理解し、説明することが出来る。
5	障がいのある人との交流	障がい者スポーツの各種イベントにボランティアとして参加し、交流を通して障がい者に対する理解を深めるとともに、障がい者スポーツの振興に寄与する事が出来る。
6		
7		
8		
9	障がいの理解とスポーツ(身体・視覚・聴覚障がい・内部障がい等)	障がい者スポーツを指導する上で知っておくべき、身体障がい(肢体不自由、視覚・聴覚・内部障がい)の種類や特徴や効用を理解し、説明することが出来る。
10		
11	障がいの理解とスポーツ(知的障がい)	障がい者スポーツを指導する上で知っておくべき、知的障がいの特徴や効用を理解し、説明することが出来る。
12	障がいの理解とスポーツ(精神障がい)	障がい者スポーツを指導する上で知っておくべき、精神障がいの特徴や効用を理解し、説明することが出来る。
13	スポーツのインテグリティ(高潔性)と指導者に求められる資質	スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーと共に学び続ける姿勢を理解し、説明することが出来る。
14	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	対象者が障がい者スポーツを実施するための留意点を理解し、工夫や支援ができる。
15		

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸拓也		実務経験紹介	一般病院に15年間勤務。作業療法士として障がい者スポーツ活動に携わった経験あり。	

科目名	作業療法総括演習A				単位数	1	時間数	15	
授業形態	実習	対象学生	3年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	臨床実習(評価実習)に挑むために必要な書類の作成、リスク管理に関わる手技の習得、実習終了後の報告会に向けたレジメ作成を実施する。								
一般目標	臨床実習の内容・目標が理解できる。リスク管理、救急救命に関する手技を習得できる。								
テキスト 参考書等	適宜配布								

到達目標		
知識(認知領域) 評価から作業療法治療・訓練の一連の課程が理解できる。		
技術(精神運動領域) 提出物等における報告、連絡、相談は適宜することができる。事例報告会におけるレジメを他者に分かりやすいよう作成し、端的にまとめて報告することができる。臨床現場で必要な知識・技術(感染予防、心肺蘇生等)を身につけることができ、手順や留意点を説明することができる。		
態度(情意領域) 医療人としての倫理観を身につけることができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	臨床実習B オリエンテーション 実習前オリエンテーション 書類作成(プロフィール・行動目標)	臨床実習の目的や課題を確認し、説明できる。実習スケジュール確認を行い、計画的に実習準備を実施する事が出来る。実習に挑む作業療法学生としての心構えや倫理、立ち居振る舞いについて学び実践することができる。自己の課題を振り返り、具体的かつ判定可能な行動目標を立案することができる。
2	事例報告書の作成①	レジメ作成要項に則り、レジメを作成することができる。
3	臨床実習BⅠ期 事例報告会	実習で関わった対象者、評価、問題点、治療内容について、レジメを基に所要時間内で適切に報告が出来る。
4	臨床実習BⅠ期 事例報告会	実習で関わった対象者、評価、問題点、治療内容について、レジメを基に所要時間内で適切に報告が出来る。
5	臨床実習BⅠ期 事例報告会	実習で関わった対象者、評価、問題点、治療内容について、レジメを基に所要時間内で適切に報告が出来る。
6	事例報告書の作成②	レジメ作成要項に則り、レジメを作成することができる。
7	臨床実習BⅡ期 事例報告会	実習で関わった対象者、評価、問題点、治療内容について、レジメを基に所要時間内で適切に報告が出来る。
8	臨床実習BⅡ期 事例報告会	実習で関わった対象者、評価、問題点、治療内容について、レジメを基に所要時間内で適切に報告が出来る。
9	臨床実習BⅡ期 事例報告会	実習で関わった対象者、評価、問題点、治療内容について、レジメを基に所要時間内で適切に報告が出来る。
10	宇部市チャレンジデーへの参加(石丸)	宇部市チャレンジデーに参加できる。宇部市チャレンジデーの概要や意義を説明できる。
11	宇部市チャレンジデーへの参加(石丸)	宇部市チャレンジデーに参加できる。宇部市チャレンジデーの概要や意義を説明できる。
12	病棟におけるリスク管理	臨床実習において遭遇するであろうリスクに対し、適切なリスク管理を学び実践することができる。
13	喀痰吸引講習	喀痰吸引の基礎的知識・手順・手技を習得し、実践することができる。
14	喀痰吸引講習	喀痰吸引の基礎的知識・手順・手技を習得し、実践することができる。
15	レジリエンス・ストレスコーピング	レジリエンス、ストレスコーピングを学び、実習における自身のストレスに対し適切に対処することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			100	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品		○		評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫、石丸 拓也、他		実務経験紹介	日本作業療法士協会「臨床実習指導者講習」修了	

科目名	臨床実習セミナーⅡ					単位数	1	時間数	15	
授業形態	演習	対象学生	3	学期	前後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室	
授業概要	臨床実習で対象者に対して評価や作業療法を実施するうえで最低限必要となる知識を習得するために、国家試験過去問題を活用して学習する。なお、学習方法は、個人学習、グループワークなど内容に応じて変更する。チャレンジデーや小学生イベントで第三者との交流を通じて社会人としての振る舞い等を身につける機会とする。									
一般目標	・国家試験過去問題(直近3年)は一通り問題を解き終われる。 ・臨床学習で必要となる基礎知識(特に、評価方法)について国家試験過去問題(直近3年)は一通り問題を解き終われる。									
テキスト 参考書等	・ヒント式トレーニング 基礎医学編および臨床医学編 (南山堂)									

到達目標										
知識(認知領域) ・作業療法士国家試験過去問題(直近3年)は解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。										
技術(精神運動領域) ・特になし										
態度(情意領域) ・授業に参加できる。・小学生イベント、チャレンジデーの準備と本番に休まず参加できる。										

回数	授業内容	授業目標
1	国試対策講座	作業療法士国家試験過去問題(直近3年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。
2	国試対策講座	作業療法士国家試験過去問題(直近4年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。
3	国試対策講座	作業療法士国家試験過去問題(直近5年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。
4	国試対策講座	作業療法士国家試験過去問題(直近6年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。
5	国試対策講座	作業療法士国家試験過去問題(直近7年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。
6	国試対策講座	作業療法士国家試験過去問題(直近8年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。
7	国試対策講座	作業療法士国家試験過去問題(直近9年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。
8	国試対策講座	作業療法士国家試験過去問題(直近10年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。
9	国試対策講座	作業療法士国家試験過去問題(直近11年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。
10	国試対策講座	作業療法士国家試験過去問題(直近12年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。
11	小学生イベント 準備・運営	小学生や保護者に対して、作業環境を整備できる、また、必要に応じて指示したり、活動を援助することができる。
12	小学生イベント 準備・運営	小学生や保護者に対して、作業環境を整備できる、また、必要に応じて指示したり、活動を援助することができる。
13	宇部市チャレンジデーへの参加(石丸)	宇部市チャレンジデーに参加できる。宇部市チャレンジデーの概要や意義を説明できる。
14	宇部市チャレンジデーへの参加(石丸)	宇部市チャレンジデーに参加できる。宇部市チャレンジデーの概要や意義を説明できる。
15	国試対策講座	作業療法士国家試験過去問題(直近17年)が解答できる。また、主要なテーマについては解説できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として、医療、福祉、教育での経験を、合わせて10年以上有している。	